

中学校第3学年国語科学習指導案

期 日：令和3年11月12日

時 間：第5校時

対 象：第3学年B組27名

学校名：清心中学校

授業者：太田菜津子

1 単元（題材）名 「 作品鑑賞文を書く ～画商になりきって作品の魅力を伝えよう～ 」

2 単元（題材）の目標

- (1)理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。〔知識及び技能〕(1)イ)
- (2)多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)イ)
- (3)論理の展開などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすことができる。〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)オ)
- (4)言葉がもつ価値を認識するとともに、自身の感覚を適切に言語化することで、思いや考えを伝え合おうとする。〔学びに向かう力・人間性等〕

3 単元（題材）の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)イ)	①「書くこと」において、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫している。(B(1)イ) ②「書くこと」において、論理の展開などについて、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。(B(1)オ)	①言葉がもつ価値を認識し、自身の感覚を適切に言語化することで、思いや考えを伝え合おうとしている。

4 指導観

(1)単元（題材）観

国語科という教科の中で、指導者が目指すのは「自立した読み手」の育成である。ここで指す「自立した読み手」とは、対象であるテキストの読解を通して引き出された思考を意識化し、メタ認知することのできる読み手である。つまり、テキストの内容を受動的に読むだけでなく、その内容に対して批判的な立場をとったり、自身が考えたこと、感じたことの理由を考察したりと、自身に問いかけながらテキストと向き合うことが必要になる。この力を育成するために、今回は、「作品鑑賞文を書く」という活動の中での思考法の活用を試みたい。

作品を見て何かを感じることで自体に言葉は不要だが、見方や感じ方を他者に伝えようとするときには言葉が重要な役割を果たす。また、「なぜ自分はこの作品を美しいと感じるのか」「なぜこの作品を魅力的だと思うのか」について考えるときも、言語を用いて思考するだろう。今回の単元では、一見して論理的な説明とは乖離が起きやすい作品に対する主観的な感覚について、なぜそう感じるのかを思考し、表現するという過程を、言語活動を中心に行う。その中で、自身の感覚を言語化する方法を学び、その表現の方法を知ることが目的としたい。

(2)教材観

「富嶽三十六景」は、葛飾北斎（1760-1849）の代表作であり、浮世絵風景画全体の代表作とも言える。1831年（天保 2）の出版当時も、その奇抜な構成や、西洋から紹介されて間もない化学染料ベルリン・ブルーをふんだんに用いた色彩が、新しいものの好きの江戸っ子を喜ばせた。出版当初、タイトル通り 36 図が出版されたが、非常に好評であったため、後から 10 図が追加され、最終的に全 46 図のシリーズとなった。

46 様全図に富士山が描かれているが、46 様それぞれ個性的な構図、形状、色を用いて表現されているため、生徒が鑑賞する作品を選ぶ楽しさがあると共に、魅力的だと感じる根拠を多様な観点で捉え、論理的に説明する際の足掛かりとなることが期待される。また、構図や形状、色などの表現を変化させることで、同じ富士山を描いていてもその見え方や感じられ方が異なることに気づき、多角的にその効果を検証することのできる作品だと考えられる。さらに、他者の選ぶ作品と自身の作品の描かれ方の違いも明確に理解できると予想されることから、ロジカル・ラテラル・クリティカルと 3 つの思考法を活用して鑑賞する作品として適切であると考ええる。

(3)生徒観

女子生徒 27 名の明るく、活発なクラスである。指導者の問いかけに素直に反応し、グループ活動にも意欲的に取り組むことができる。

中学 1 年生からさまざまな単元で「書くこと」の活動に取り組んでおり、問いに対する自身の答えを適切な分量で記述することができる生徒が多い。しかし、曖昧な感覚を適切に表現するための語彙の不足や、感覚の根拠を明確に示すことができないなど、論理的に思考し、それを適切に記述することに課題が見られる。

5 年間指導計画における位置付け

以下の表にあるように、生徒は、自身の考えを「書く」活動を多様な教材において取り組んでいる。文学教材と評論・論説文教材では、それぞれの単元において生徒が「書く」活動の目的に違いがあるように思われる。しかし、指導者は、いずれにおいても生徒が自身の感覚・思考をメタ認知し、他者に伝えるために適切に言語化するという過程は同様であると考えている。本単元では、作品鑑賞文を書くために今回の研究テーマである 3 つの思考法を活用する。この活動により、生徒たちが、国語だけでなく他教科での言語活動においても、汎用的にメタ認知→言語化の過程を行うことができるのではないかと。

	単元（題材）名	主な内容
1 学 期	〔詩〕 吉野弘「岩が」	・ 詩という表現方法の効果を知り、表現技法や語彙など、豊かな言語文化にふれる。
	〔評論〕 吉川芳則「『批判的に読む』とは」 〔評論〕 長谷川権「間の文化」	・ クリティカルに物事を捉えることの効果を知る。 ・ 文章の構成や論理の展開の仕方を捉え、評価する。 ・ 与えられた条件に従って、説得力のある文章を書く。
2 学 期	〔俳句〕 夏井いつき「俳句の世界」 「俳句十句」	・ 語句に注意して情景を豊かに想像し、俳句を読み味わう。 ・ 読み手を説得できるような論理の展開を考え、構成を工夫して批評文を書く。
3 学 期	〔論説〕 情報社会を生きる —メディア・リテラシー— 〔実用文〕 広告の読み比べ	・ 具体と抽象などの関係に注意しながら、情報の信頼性の確かめ方を理解して情報を活用し、自分の考えを広げたり深めたりする。 ・ 書く目的や意図に応じて文章の種類や引用する資料を選択し、読み手を説得できるよう構成を工夫する。

6 単元（題材）の指導計画と評価計画（全4時間扱い）

時	★目標 ○学習内容 ・学習活動	■評価規準（評価方法）
第1時	★松尾芭蕉の句「閑かさや岩にしみ入る蟬の声」を複数の観点に分けて鑑賞し、それぞれの観点における自身の感想を文章化する。 ○松尾芭蕉「おくの細道」の学習を振り返りながら、「閑かさや岩にしみ入る蟬の声」が詠まれた場面を確認する。 ○句の鑑賞をする。 ・句について複数の観点を提示し、グループで話し合いながら鑑賞する。 ○鑑賞文を書く。 ・鑑賞の観点をもとに、句によって芭蕉が表現したかったものについて鑑賞文を書く。	■自身の感覚を他者に伝えるための言葉を選び、グループで共有しようとしている。〔知・技〕①・〔態度〕① 〔観察〕 ■よい点を書くとき、鑑賞の観点をもとに鑑賞しようとしている。 〔思・判・表〕①〔ワークシート〕
第2時（本時）	★葛飾北斎「富嶽三十六景」の中で魅力的だと感じた作品について多角的に観察し、自身の感覚の根拠を他者に説明するための論理を組み立てる。 ○作品鑑賞をする。 ・葛飾北斎「富嶽三十六景」の中で魅力的だと感じた作品について多角的に観察する。 ○鑑賞文を書く。 ・自分の感覚を論理的に説明し、画商になりきって魅力を他者に伝える。	■自身の感覚を他者に伝えるための言葉を選び、グループで共有しようとしている。〔観察〕 ■他者を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫している。〔思・判・表〕①〔ワークシート〕 ■論理の展開などについて、他者の理論と対比しながら、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。 〔思・判・表〕②〔ワークシート〕
第3時	○鑑賞文を書き直す。 ・他者の発表を聞く中で、自身の理論と比較をし、より強固な根拠を示す。	■他者を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫している。〔思・判・表〕①〔ワークシート〕 ■論理の展開などについて、他者の理論と対比しながら、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。 〔思・判・表〕②〔ワークシート〕
第4時	★上田桑鳩「愛」の主題を捉えた上で、その主題を他者に伝えるための言語による表現方法を選択し、実際に表現する。 ○作品鑑賞をする。 ・上田桑鳩「愛」を多角的に鑑賞する。 ・作品のタイトルやエピソードを知る。 ○他者に主題を伝えるための表現を試みる。 ・作品を展示する際のキャプションを作成する。 ・文章だけでなく詩や短歌、俳句、または単語による表現など多様な表現から適切なものを選択し、実践する。	■表現のために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 〔知・技〕①〔ワークシート〕 ■他者に主題が伝わるように表現方法を考えて、その構成を工夫している。 〔思・判・表〕①〔ワークシート〕

7 指導に当たって

- (1)ラテラルシンキング：自身の選んだ作品のどこが魅力的なのか、多角的な視点で作品を鑑賞する。
- (2)ロジカルシンキング：ラテラルシンキングにより表出した自身の感覚が、作品のどこから生まれたものなのかを根拠として示し、自身の選んだ作品の魅力を論理的に記述する。
- (3)クリティカルシンキング：他者の発表を聞き、自身の理論と比較しながら、再度、自身が選んだ作品の魅力を記述する。

8 本時（全4時間中の2時間目）

(1)本時の目標

- ・葛飾北斎「富嶽三十六景」の中で魅力的だと感じた作品について多角的に観察し、自身の感覚の根拠を他者に説明するための論理を組み立てる。〔知・技〕〔思・判・表〕
- ・自身の選んだ作品と他の作品、自身の理論と他者の理論を比較し、より強固な論理を組み立てることに役立てる。〔思・判・表〕

題材の具体的評価規準

新関伸也・松岡宏明編『ループリックで変わる美術鑑賞学習』における「鑑賞学習ループリック」を参考に設定する。

題材の 評価規準	評価規準	「十分満足」と 考えられる状況	努力を要する状況への 手立て
観点(A) 「見方・感じ方」	作品の主題や造形について、作品にまつわる知識や他者の見方・感じ方に刺激を受けながら、自分なりの見方・感じ方を分析的に表明している。	・グループ活動で他者の考えを聞くことで、自身の考えが変化していることに気づく。 ・自身の考えを言語化し、他者に伝わりやすく論理的に組み立てて表現できている。	・他者との意見交流を通して、自身の感覚を言語化できるよう、こまめにペア活動やグループ活動を取り入れる。
観点(C)-2 「構成・配置」	作品の構成や配置に込められた意味や特徴を根拠として、自身の考えを論理的に説明している。	・魅力的だと感じる理由として、構成や配置に注目し、鑑賞文に根拠として組み込んでいる。	・グループ活動中に、構成や配置に目がいくような指示をする。

(2)本時の展開

時間	○学習内容 ・学習活動	・指導上の留意点	■評価規準（評価方法）
導入 （4分）	○葛飾北斎「神奈川沖浪裏」を提示し、第一印象を共有する。（3分） ○本時のめあてと学習活動を確認する。（1分）	・「何が見えますか?」「何が起っていますか?」と問うことで、作品そのものと向き合うという本時における基本姿勢をとらせる。 ・本時の学習活動について見通しをもたせ、最後に作品鑑賞文を書くことを伝える。	
	[本日の学習目標] 最も「富士山」が魅力的に描かれた作品について、自身の感覚の根拠を他者に説明するための論理を組み立てよう。		

	○葛飾北斎「富嶽三十六景」全 46 図の中から、自身が最も魅力的だと思う作品を選ぶ。(3 分) ○本日の問いを確認する。(2 分)	・あらかじめ全 46 図をプリントで準備しておき、手元で一覧できるようにする。 ・「最も魅力的だと思う」＝「富士山が最も魅力的に見える」という観点であると指定し、後の活動で観点が分散しないようにしておく。 ・今回は画商になりきって、他者に作品の魅力を理解してもらうよう説明することを伝える。	
	[本日の問い] 自身が魅力的だと思った作品を他者に理解してもらうためには、どのような説明をすれば良いだろうか。		
展開 (40分)	＜思考法を用いた鑑賞＞ ①Chromebook で自身が選んだ作品を詳細に鑑賞する。[ラテラルシンキング] (3 分) ② ①の鑑賞で表出した自身の感覚が作品のどこから生まれたものなのかを根拠とし、自身の選んだ作品の魅力を記述する。[ロジカルシンキング] (4 分+6 分) ○3～4 人班になり、画商になりきって自身の選んだ作品の魅力を紹介する。 (ひとり 1 分×4 人分=4 分+2 分) ○クラス全体で、班の代表者が自身の選んだ作品の魅力を紹介する。 (ひとり 1 分×7 人分=7 分+3 分)	・魅力的だと感じた作品について多角的に観察させるための問いを提示する。 ・論理的に思考できる問いを提示し、作品の中から根拠を探すよう指示する。 ・前時で学習した、観点を分ける鑑賞の方法を活用するよう指示する。 ・他の人の話をよく聞く姿勢をとり、発表しやすい雰囲気を作るよう指導する。 ・自身と他者の意見を比べながら発表を聞くように指示する。 ・上記と同様。 ・時間が足りないようなら、獲得したおはじきの多い人に代表となって紹介してもらう。	■自身の感覚を他者に伝えるための言葉を選び、グループで共有しようとしている。[観察]

展開 (40分)	○代表者の発表を聞いて「買いたい」と思った作品に投票(おはじきによる投票)をする。ひとり4枚のおはじきを配布し、魅力的だと感じた作品に投票する。その際、複数の作品に分けて投票しても良い。 (6分)	・発表者のパフォーマンスではなく、その作品の魅力によって投票するように伝える。	
まとめ (6分)	○他者の発表を聞き、自身の理論と比較しながら、再度、自身が選んだ作品の魅力を記述する。[クリティカルシンキング]	・自身の選んだ作品と他の作品、自身の理論と他者の理論を比較し、より強固な論理を組み立てるよう指示する。	■読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫している。〔思・判・表〕① [ワークシート] ■論理の展開などについて、他者の理論と対比しながら、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。〔思・判・表〕② [ワークシート]